

平成29年度 第2回 新潟市防災会議 津波対策専門会議

日時 平成30年3月13日(火)

午前10時～

場所 新潟市役所 本館3階 本部会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 新たな市津波ハザードマップに使用する浸水深の色分けについて
- (2) 同上 基準水位(せり上がり浸水深) (案)の表示について

3 閉 会

【配布資料】

- 資料1 津波ハザードマップ見直しのポイント
- 図面2-1 浸水深の図面(前回案)
- 図面2-2 同上(今回案)
- 図面3-1 津波到達時間の図面(前回案)
- 図面3-2 同上(今回案)

新潟市防災会議 津波対策専門会議 座席表

新潟市役所 本館3階 本部会議室

平成30年3月13日

入口

入口

大型モニター

傍聴者・報道機関

大勝 孝雄 ○
(新潟市都市政策部 部長)

土田 克行 ○
(新潟市消防局 局長)

相羽 崇宏 ○
(新潟県警察本部 警備第二課長補佐)

川村 雅一 ○
(北陸地方整備局 総括防災調整官)

塩沢 啓子 ○
(にいがた女性会議 事務局長)

○ 大谷 一男
(西区自治協議会 委員)

○ 川崎 ツキ子
(中央区自治協議会 委員)

○ 長谷川 徳明
(東区自治協議会 委員)

○ 山賀 好郎
(北区自治協議会 委員)

○ 井ノ口 宗成 情報アドバイザー
(静岡大学 情報学部 講師)

○ 安田 浩保
(新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授)

事務局

座長

田村 圭子

(新潟大学 危機管理室 教授)

1 浸水深の色分け

委員意見

- ・これまでの緑色は、安心感を与えてしまう
- ・危険側に立った周知を、分かりやすく

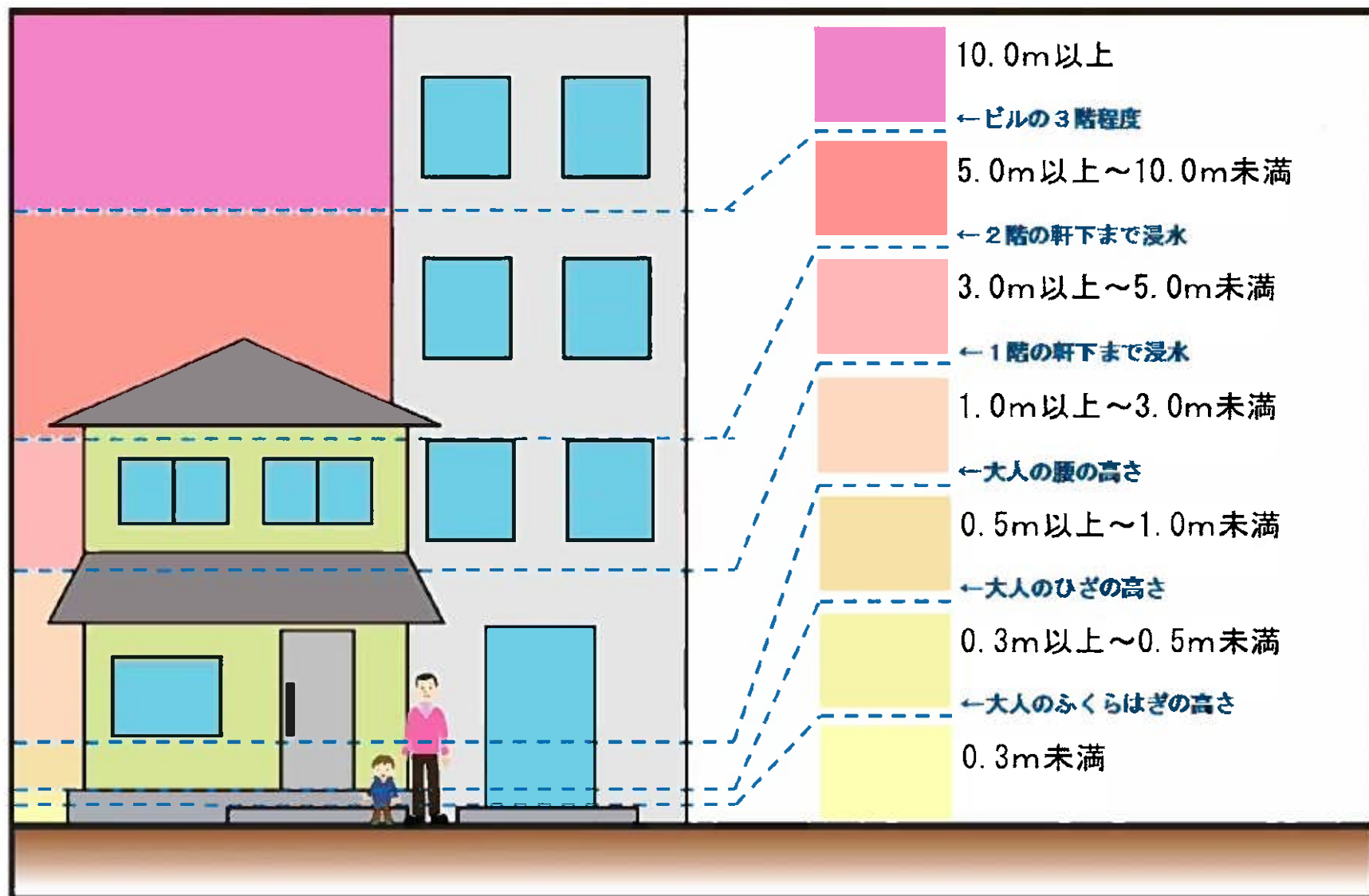
方向性

- ・これまでの色合いをやめ、国交省の示す配色、区分で作り直す
- ・実際の建物や人に合わせた図を入れ、見る人に危険性が伝わりやすいようにする

修正案

- 色・・・国交省の配色、区分に修正
- 道路・・・国県市道の主要道のみ表示
- 高速・・・青→グレーに
- 鉄道・・・黒→グレーに
- 凡例・・・建物や人の図も追加して、その高さになるとどういった危険な状態になるかも記載

津波ハザードマップ 見直しのポイント(前回からの課題) 1



津波ハザードマップ 見直しのポイント(前回からの課題) 1

▽ 浸水深の見方

- 10.0m以上 — 3階建ての建物(或いは3階部分まで)が水没する
- 5.0m以上~10.0m未満 — 2階建ての建物(或いは2階部分まで)が水没する
- 3.0m以上~5.0m未満 — 木造家屋のほとんどが全壊する
- 1.0m以上~3.0m未満 — 津波に巻き込まれた場合ほとんどの人が亡くなる
- 0.5m以上~1.0m未満 — 車が水に浮き流れ始める
- 0.3m以上~0.5m未満 — 歩行による避難が困難になる
- 0.3m未満 — 思うように歩くことが出来ない

2 基準水位(せり上がり浸水深) (案) の表示

委員意見

- ・海岸部の「せり上がり」が心配
- ・使う市民にとって分かりやすいものを
- ・資料はなるべくコンパクトにすべき

方向性

- ・「せり上がり」を説明するイラスト等を挿入する
- ・地図上に「せり上がり」部分を表示する

修正案

- 津波到達時間の図面に、「せり上がり」部分を表示
- 「せり上がり」が、10cm以上発生する地帯を、「白」で網かけ
- 「せり上がり」を説明する文章とイラストを、同じ地図上に表示し、見やすくする

津波ハザードマップ 見直しのポイント(前回からの課題) 2

「せり上がり」が大きいと想定された地帯では・・・

地震が発生してすぐに避難行動を開始し、
基準水位よりも高い丈夫な建物の避難してください。

特に海・川に近い地帯では・・・

せり上がった津波は、
より「強い勢い」を保ったまま街の中流れ込みます。

基準水位とは

津波災害警戒区域において、避難施設
や特別警戒区域内の制限用途の建築物
に制限を加える際の基準となる水位

せき上げ高さとは

津波浸水想定に定める親水深に、津波
が建築物等の衝突により、せり上がった
高さを考慮した水位

